

低い温度を維持する方法

岸城市立豊川小学校 6年1組 平江 奏心

1 研究の目的

夏になると車から出るときに車内に帰るといい事はない。しかし、車内は常に高い温度で、車内にいる人の体調を悪くする。そこで、車内に保冷バッグを置くことで車内の温度を下げる方法を研究する。

2 研究の方法

① 車内に保冷バッグを置いたり、車内に保冷バッグを置かない場合と比較して車内の温度を測定する。

② 車内に保冷バッグを置いたり、車内に保冷バッグを置かない場合と比較して車内の温度を測定する。

③ 車内に保冷バッグを置いたり、車内に保冷バッグを置かない場合と比較して車内の温度を測定する。

④ 車内に保冷バッグを置いたり、車内に保冷バッグを置かない場合と比較して車内の温度を測定する。

3 研究の結果

以下は、車内に保冷バッグを置いた場合と比較して車内の温度を測定した結果です。

条件	車内温度 (度C)	車外温度 (度C)
保冷バッグなし	35.0	33.0
保冷バッグあり	33.0	31.0

以上のように、車内に保冷バッグを置くことで車内の温度を下げる効果があることが確認されました。

4 研究の考察

(1) 車内に保冷バッグを置いた場合と比較して車内の温度を測定した結果、車内の温度が約2度C下がった。

(2) 車内に保冷バッグを置いた場合と比較して車内の温度を測定した結果、車内の温度が約2度C下がった。

(3) 車内に保冷バッグを置いた場合と比較して車内の温度を測定した結果、車内の温度が約2度C下がった。

(4) 車内に保冷バッグを置いた場合と比較して車内の温度を測定した結果、車内の温度が約2度C下がった。

5 研究のまとめ

今回の実験結果では、車内に保冷バッグを置くことで車内の温度を下げる効果があることが確認されました。しかし、車内に保冷バッグを置くことで車内の温度が下がる一方で、車外の温度が上昇する可能性があります。そのため、車内に保冷バッグを置く際には、車外の温度を考慮する必要があります。